

平成22年度事業決算

(単位:千円)

事業費総計	444,155	
水産海洋研究センター事業費	422,325	
職員費	322,943	
運営費	24,167	
水産研究施設整備費	8,935	(県単)
水産研究施設整備費	10,070	(補助)
函南丸整備点検事業	11,370	(県単)
試験研究施設管理費	8,543	(県単)
水産海洋研究費		
本所	(28,189)	
マチ類の資源評価・資源回復調査	795	(県単)
生物情報収集調査	2,971	(受託)
日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査	2,359	(受託)
モズク類養殖技術改良試験	1,297	(県単)
ヒトエグサ中性胞子を用いた養殖試験	48	(県単)
クビレオゴノリ養殖技術開発	222	(県単)
ナマコ類の養殖基礎試験	267	(県単)
ヒメジャコのケージ式養殖技術実用化試験	143	(県単)
養殖魚介類類の魚病対策試験	2,327	(県単)
特定海域海産生物放射能測定調査	1,000	(受託)
沖合海域海洋観測調査	8,029	(受託)
海洋動態解析事業	121	(補助)
漁場探索支援事業	779	(県単)
マグロ類回遊行動生態調査	2,584	(受託)
ソデイカ漁業の漁具漁法改良試験	2,133	(県単)
モズクの新規加工方法等に関する研究	264	(県単)
漁獲情報収集管理事業	163	(県単)
新漁業管理制度推進情報提供事業	1,662	(補助)
海底地殻変動システムを用いた海域観測	710	(受託)
ソデイカ内臓醤油開発に関する研究	315	(受託)
石垣支所	(8,108)	
八重山海域資源管理型漁業推進調査	986	(県単)
シロクラベラの分布生態および資源加入過程の研究	1,500	(受託)
シャコガイの稚貝期飼育技術開発	791	(県単)
大型ハタ類の採卵・種苗生産技術開発	1,959	(県単)
種苗生産・養殖への地下浸透海水利用技術開発	2,872	(県単、科学技術振興課)
行政対応等事業費		
本所	(13,170)	
資源管理型漁業推進調査	675	(交付金、水産課)
マリンバイオ産業創出事業(海藻養殖技術開発)	5,649	(県単、新産業政策課)
県産養殖魚の新たな養殖管理技術の開発	2,223	(交付金、水産課)
漁業管理対策事業	621	(交付金、水産課)
養殖水産動物保健対策推進事業	3,836	(交付金、水産課)
耐久性浮き漁礁管理事業	166	(県単、漁港漁場課)
石垣支所		
シャコガイ生産事業	8,660	(県単、水産課)
ヤイトハタ生産事業		(県単、水産課)

[沿革]

大正	10年	(1921)	4月	沖縄県水産試験場設立，事務所を県庁内に置く
昭和	2年	(1927)	11月	調査船初代「函南丸」100トン竣工
	3年	(1928)	3月	那覇市垣花町に庁舎新築
	19年	(1944)	12月	空襲により焼失
	23年	(1948)	7月	沖縄水産試験場として再出発，事務所を沖縄民政府内に置く
	25年	(1950)	4月	琉球水産研究所に改称
	27年	(1952)	3月	佐敷町馬天に庁舎新築移転
	32年	(1957)	5月	那覇市泊に庁舎新築移転
	35年	(1960)	5月	調査船第2代「函南丸」159トン竣工
	41年	(1966)	8月	調査船初代「くろしお」21トン竣工
			10月	石垣市に支場として八重山水産模範養殖場設置（日政援助） 本場の研究室をこれまでの漁労・製造・増殖の3部門から資源調査が 加わり4研究室となる。さらに庶務課が設置される
	45年	(1970)	1月	琉球水産研究所，同八重山支所に改称
			10月	琉球水産試験場，同八重山支場に改称
	47年	(1972)	4月	復帰に伴い沖縄県水産試験場及び同八重山支場に改称 本場は1課4研究室体制から1課2室体制となる
	49年	(1974)	8月	糸満市に本場庁舎新築移転（国庫1/2）
	50年	(1975)	1月	調査船第3代「函南丸」216トン竣工
	55年	(1980)	3月	調査船第2代「くろしお」34トン竣工
	58年	(1983)	4月	本部町に栽培漁業センター（支場）開設
	63年	(1988)	4月	同センターとして独立
平成	5年	(1993)	9月	八重山支場全面増改築開始
	7年	(1995)	3月	調査船第4代「函南丸」176トン竣工
	8年	(1996)	2月	調査船「くろしお」34トン廃船
			3月	八重山支場全面改築竣工
	13年	(2001)	4月	水産業改良普及所と統合
	17年	(2005)	4月	農林水産部より企画部に移り、水産業改良普及所と分離
	18年	(2006)	4月	沖縄県水産海洋研究センター，同石垣支所に改称 本所は企画管理班，海洋資源・養殖班の2班体制となる

[施設]

		本所		支所	
敷地面積	(m ²)		19,551		23,622
本館	〃	1階建	1,045	1階建	248
飼育実験棟	〃	3棟	914	1棟	200
開放実験棟	〃	1棟	233		
魚病実験棟	〃	1棟	99		
研究棟	〃			2棟	402
屋外実験池	〃	29面	281	38面	1,733
屋内実験池	〃	10面	222	35面	1,142
展示等	〃			1階建	192
調査船	函南丸	176トン・1,200HP	平成7年(1995)	3月竣工	

〔組織〕

沖縄県企画部……………科学技術振興課…………… 沖縄県水産海洋研究センター (38人)

所長 …… 企画管理班長 …… 庶務 2人, 農業技術補佐員 1人 (本所 29人)

…… 調査船 凶南丸 13人

…… 海洋資源・養殖班長 研究員 10人

…… 石垣支所長 庶務 1人、研究員 4人、農業技術補佐員 2人、用務員 1人 (支所 9人)

〔職員〕

(平成22年4月1日現在)

	本所			石垣支所	計
	所長	企画管理班	海洋資源・養殖班		
行政職	1	2		1	4
研究職		1	11	5	17
海事職		13			13
現業職		1		2	3
用務員				1	1
計	1	17	11	9	38

平成22年度職員名簿

本所

所長	(技)	島田和彦	研究員	(技)	須藤裕介
			〃	〃	知名真知子
企画管理班			凶南丸		
班長	(技)	前田訓次	船長	(技)	外間実
主査	(事)	真保栄恵子	機関長	〃	中村彰
主任	〃	本永紀枝	通信長兼主任航海士	〃	新垣新三
農業技術補佐員	(現)	濱川薫	主任航海士	〃	上原英雄
海洋資源・養殖班			航海士	〃	西銘清
班長	(技)	海老沢明彦	主任機関士	〃	松川一志
研究主幹	〃	玉城信	〃	〃	新崎悟
主任研究員	〃	玉城英信	機関士	〃	大城勉
〃	〃	平手康一	〃	〃	喜屋武豊
〃	〃	南洋一	主任	〃	豊見山彰彦
〃	〃	中村博幸	〃	〃	吉田達美
〃	〃	太田格	〃	〃	新垣昇
〃	〃	山田真之	〃	〃	桃原慧
研究員	〃	松尾和彦			

石垣支所

支所長	(技)	渡辺利明	研究員	〃	秋田雄一
主事	(事)	郡司昌和	農業技術補佐員	(現)	呉屋秀夫
主任研究員	(技)	木村基文	〃	〃	仲本光男
〃	〃	井上顕	用務員	(事)	照屋洋美
研究員	〃	岸本和雄			

平成22年度職員異動（転入・転出）

再任用退職

西銘清（図南丸主任航海士）

新垣昇（図南丸主任）

浜川隆男（図南丸主任）

転 出 (旧所属)
太田格 石垣支所

転 入 (現所属)
太田格 (海洋資源・養殖班) 石垣支所から

新採用

秋田雄一 (石垣支所)

再任用

西銘清 (図南丸航海士) 再々任用

新垣昇 (図南丸主任) 〃